

改訂第2版の序

「臨床医学」は、疾病がどのようなメカニズムで発症するのか、疾病により人体の構造や代謝が健常者と比較してどのように変化するのか、疾病によりどのような症状・合併症がみられるのか、疾病を診断するにはどのような検査を行い、どのような検査結果を認めるのか、そして、疾病的治療全般（食事・栄養療法、運動療法、薬物療法、外科療法、その他の療法）を学ぶ学問である。したがって、「臨床医学」を学ぶためには、「解剖生理学」「生化学」によって健常者の人体の構造と代謝機能を十分に理解しておくことが重要である。

また、「臨床医学」は、「臨床栄養学」、「栄養管理学」、「栄養教育」を学ぶ前提として必要不可欠な学問である。すなわち、疾病的病態についての十分な知識を持つことにより、はじめて、「なぜ、このような栄養療法が有用なのか」を理解することができる。「臨床医学」は、「解剖生理学」、「生化学」などの基礎的な学問から「臨床栄養学」、「栄養管理学」、「栄養教育」などの管理栄養士、栄養士にとって実際の実地臨床を学ぶ学問への橋渡しとなる学問である。

したがって、本書では、「臨床医学」を学ぶ前提として知っておかなければならぬ「解剖生理学」、「生化学」など基礎知識についても十分に解説し、理解しやすくなるように努めた。また、「臨床栄養学」、「栄養管理学」、「栄養教育」への橋渡しとして、管理栄養士による各疾患の栄養管理のポイントを「臨床栄養への入門」に記載した。

本書では、各章のはじめに、その章で最も重要な点を「Point」として箇条書きで示し、最も重要な内容について1つの図に示すことで要点が一目でわかるようになっている。また、各章に関連して、話題になっていること、興味の持てるようなことを「Column」として解説した。記述の中で特に説明を要する語句については、脚注として解説し、重要な内容については可能な限り図表で示すようにして、理解しやすいように努めた。各章の終わりには、理解すべき重要な点について、「チェック問題」を掲載し、回答と詳しい解説を載せているので、是非、活用して頂きたい。

本書は初版が2011年に出版されたが、その後、管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）の改訂、各疾患の診療ガイドラインの更新があり、この度、その変更内容を取り入れた「臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版」を新たに出版することになった。改訂第2版では、用語の表記を国試にあわせたものに統一、オールカラー化とした。

本書が読者の「臨床医学」の学習に役立つことを願っている。

2015年10月

田中 明
宮坂京子
藤岡由夫